

令和3年7月7日

全日本ジュニアテニス選手権大会岐阜県予選通過枠誤記載について

岐阜県テニス協会 強化委員長 神谷 富隆

標記、本年度全日本ジュニアテニス選手権大会岐阜県予選において、14歳以下女子シングルの通過枠数を「7」と誤った記載したことで、当該予選第7位に入った選手及び8位の補欠登録選手に多大なご迷惑をおかけしましたこと深くお詫び申し上げます。

(1) これまでの経緯

当該大会は、岐阜県テニス協会強化委員会が主管する予選会です。今回の予選会要項発表に至る経過を時系列で説明させていただきます。

4月28日、当該予選レフェリー担当の岩崎彌廣理事長が本年度「2021全日本ジュニアテニス選手権大会岐阜県予選要項案」を作成し、強化委員長の私、山田孝敏副委員長、高木一輝副委員長、土本幸司前副委員長に記載内容チェックのため送信。

同日、山田副委員長から各年齢種別の東海予選通過枠数が岩崎理事長に送信され、それに基づき岩崎理事長が要項案を修正。この時点で、14歳以下女子シングルの通過枠数を「7」と誤って記載。山田副委員長は、4月26日に東海テニス協会から受信した東海ジュニアランキングにおいて、14以下女子シングル9位の岐阜県某選手を7位と勘違い。その選手が東海協会推薦枠に入っていると誤認識してしまったのです。

4月29日、岩崎理事長は各年齢種別の東海予選通過枠数を修正した「2021全日本ジュニアテニス選手権大会岐阜県予選要項案」を、私、山田副委員長、高木副委員長、土本前副委員長に、再度の記載内容チェックのため送信。いずれの担当からも14歳以下女子シングルの通過枠数「7」の誤記載について指摘はありませんでした。

5月1日、岩崎理事長が更に一部文言に修正を加えた「2021全日本ジュニアテニス選手権大会岐阜県予選要項案」を、私、山田副委員長、高木副委員長、土本前副委員長に、再々度の記載内容チェックのため送信しています。

5月6日、この日までにいずれの担当からも内容への修正依頼がなかったため、5月1日に修正した「2021全日本ジュニアテニス選手権大会岐阜県予選要項」をホームページに掲載。

ここで反省しなければならないのは、メールを受信した各担当が、「山田副委員長の出した東海予選通過枠の数字に間違いはないであろう」との過信により、私も含めた担当者全員が、東海予選通過枠数のチェックを怠ったことが第一です。東海ジュニアランキングは東海テニス協会ホームページでチェックが可能にもかかわらず手を抜いた結果となりました。

第二の反省点は、4月26日に山田副委員長が受信した東海テニス協会からの東海ジュニアランキングを各委員が共有しなかったことが挙げられます。各委員に東海ジュニアランキング情報が送信されて共有していたなら、東海予選通過枠数のチェックが容易にできたと考えられます。

6月8日、山田副委員長が岐阜県分東海中日ジュニアテニス選手権の東海テニス協会へのエントリー手続きを行っていますが、岐阜県要項で14歳以下女子シングルの通過枠数を「7」と誤って記載していたことを失念、6位までを出場選手、7位を補欠選手としてエントリーしました。

この岐阜県エントリー情報を強化委員会で共有していなかったため、東海テニス協会が東海中日ジュニア選手権ドローを発表するまで、14歳以下女子シングルの通過枠数誤りに気づくことができませんでした。これも反省材料です。

(2) 再発防止策

- ① 担当強化委員全員が責任を自覚して要項案校正に真摯に取り組むこと。
 - ② 東海テニス協会からの情報を強化委員全員で共有し、責任を持って担当業務を行うこと。
 - ③ 東海テニス協会へのエントリー等の情報についても、強化委員全員で共有しチェックを行うこと。
- 上記を徹底していく所存です。

(3) 要項記載の修正

東海テニス協会主催の各種ジュニア競技会は、東海4県への基本割り当て枠と、東海テニス協会推薦枠が設けてあります。これまで、得られた情報の範囲で岐阜県の通過枠数を予選要項に記載して参りましたが、今後は、基本割り当て枠数の表示に改めます。

これは、岐阜県予選要項発表時の東海ジュニアランキングと、実際に東海大会要項が発表される時点での東海ジュニアランキングが異なることが過去にもありましたので、間違いをなくすための修正です。

岐阜県予選実施に際しては、その時点での最新東海ジュニアランキングを勘案して順位決定戦を行うこととします。当該選手には、「東海大会出場の可能性」について説明させていただきます。

以上、今回の事案に対して、7位入賞選手、8位補欠選手はじめ関係の皆様にご迷惑をおかけしたこと、重ねて深く謝罪させて頂くとともに、再発防止に向けた改善策を皆様にお示しし、ご理解賜ることができれば幸甚に存じます。